

2025/11/16

説教題：「あなたがたは、選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民」

聖書朗読：ペテロの手紙 第一 2 章 1－10 節

¹ですから、あなたがたは、すべての悪意、すべてのごまかし、いろいろな偽善やねたみ、すべての悪口を捨てて、²生まれたばかりの乳飲み子のように、純粋な、みことばの乳を慕い求めなさい。それによって成長し、救いを得るためです。³あなたがたはすでに、主がいつくしみ深い方であることを味わっているのです。

⁴主のもとに来なさい。主は、人には捨てられたが、神の目には、選ばれた、尊い、生ける石です。⁵あなたがたも生ける石として、霊の家に築き上げられなさい。そして、聖なる祭司として、イエス・キリストを通して、神に喜ばれる霊のいけにえをささげなさい。⁶なぜなら、聖書にこうあるからです。「見よ。わたしはシオンに、選ばれた石、尊い礎石を置く。彼に信頼する者は、決して失望させられることがない。」

⁷したがって、より頼んでいるあなたがたには尊いものですが、より頼んでいない人々にとっては、「家を建てる者たちが捨てた石、それが礎の石となった。」のであって、⁸「つまずきの石、妨げの岩。」なのです。彼らがつまずくのは、みことばに従わないからです。またそうなるように定められていたのです。

⁹しかし、あなたがたは、選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神の所有とされた民です。それは、あなたがたを、やみの中から、ご自分の驚くべき光の中に招いてくださった方のすばらしいみわざを、あなたがたが宣べ伝えるためなのです。¹⁰あなたがたは、以前は神の民ではなかったのに、今は神の民であり、以前はあわれみを受けない者であったのに、今はあわれみを受けた者です。

皆さん、おはようございます。皆さんにまたお会いできてうれしいです。先月、私はペテロの第一の手紙についての説教シリーズを始め、第 1 章を取り上げました。私たちがちょっと時間を取って、第 1 章で学んだことを復習するのはいい考えだと思います。

1、2 節をお読みします－「¹ですから、あなたがたは、すべての悪意、すべてのごまかし、いろいろな偽善やねたみ、すべての悪口を捨てて、²生まれたばかりの乳飲み子のように、純粋な、みことばの乳を慕い求めなさい。それによって成長し、救いを得るためです。」

この書簡の著者はペテロであり、キリストの 12 人の弟子のリーダーであり、使徒とも呼ばれています。彼はこの手紙を小アジア中央地域にある諸教会に書きました。これらの地域の教会は、主に異邦人のクリスチャンで構成されており、そこに一部ユダヤ人クリスチャンも含まれていました。使徒ペテロは、彼らが「父なる神の予知によって選ばれた」と述べています。ここで彼は、これらのキリストの弟子たちと旧約聖書のイスラエルの民との間に類似点を見出しています。両者とも神に選ばれた特別な民であるということです。この書簡の他のいくつかの箇所でも、聖ペテロは旧約聖書の言葉を用いて、イエス・キリストの教会の構成員を描写しています。聖書学者たちは、ペテロが彼らの以前の生活を描写する方法から、これらの人々は、ほとんどが異邦人の背景を持つことは明らかであると指摘しています。例えば 1 章 14 節の箇所では、「従順な子どもとなり、以前あなたがたが無知であったときのさまざまな欲望に従わず」と述べています。これは以前の異邦人のことを示しており、神の道德の基準を知って育ったユダヤ人のことではありません。したがって、学者たちはペテロの読者は主に異邦人のキリスト者であると言っています。

2節に注目してください。三位一体の三者全てが言及されています。神である父は私たちを選ぶ方です。御子であるイエス・キリストは、私たちのために御自分の血を流された方であり、私たちはその命令に従うべきです。そして聖霊は、私たちの心を満たし、霊を動かして「聖別」される、すなわち罪から区別され、私たちの主イエス・キリストの御姿にますます形を似せるようにする役割を持っています。

1章1節に注目してください。ペテロはこれらの人々を、さまざまな地域に住む「寄留者」と呼んでいます。この現世は私たちの本当の故郷ではありません。私たちは天の市民であり、ピリピ人への手紙3章20節がそれを教えています（「私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主としておいでになるのを、私たちは待ち望んでいます。」）。私たちはここに一時的に住んでいるだけです。再び、ここには旧約聖書のイメージがあります。イスラエルの民も自分たちの土地ではない地に「寄留者」として住み、たとえ約束の地にあっても、常に神を仰ぎ、その御旨に従うべきでした。神はアブラハム、イサク、ヤコブを選び、御民の父祖として定めました。彼らは周囲の異教の国々から分かれ、真の神を証する者として生きることが求められていました。

3-5節の中で読むことができます- 「³私たちの主イエス・キリストの父なる神がほめたえられますように。神は、ご自分の大きなあわれみのゆえに、イエス・キリストが死者の中からよみがえられたことによって、私たちを新しく生まれさせて、生ける望みを持つようにしてくださいました。⁴また、朽ちることも汚れることも、消えて行くこともない資産を受け継ぐようにしてくださいました。これはあなたがたのために、天にたくわえられているのです。⁵あなたがたは、信仰により、神の御力によって守られており、終わりのときに現わされるように用意されている救いをいただくのです。」

キリストは私たちの罪のために死に、その後、罪と死に対する勝利を証明するために復活されました。私たちは天国での相続の確実な約束、すなわち救い主と共に永遠の命を持つことの約束を受けています。キリストに希望を置いたすべての人は、この永遠の命の約束を持っています。それが救いの本質です。そしてペテロはこれを「生ける望み」と呼び、人生のあらゆる試練や困難を通して私たちを支えてくれると述べています。

そして次に、6節と7節では、私たちが人生で直面するさまざまな試練について語られています。これらの試練は私たちの信仰を試し、まるで金が火で精錬されるように信仰を磨きます。これは基本的に、ヤコブがその手紙の一章で言ったことと同じで、試練を受け入れることによって成熟が生まれると私たちに教えています。

ペテロは、次に13節で「あなたがたは、心を引き締め、身を慎み、イエス・キリストの現われのときあなたがたにもたらされる恵みを、ひたすら待ち望みなさい。」と、私たちに告げています。イエス・キリストが再び来られるときに完全に私たちに与えられる神の恵みの約束に立ち、今こそ従順と奉仕の積極的な生活に心に向ける時です。

そして私たちは自分の生活もきちんと整えなければなりません。14 - 16 節でこのように言います：「¹⁴ 従順な子どもとなり、以前あなたがたが無知であったときのさまざまな欲望に従わず、¹⁵ あなたがたを召してくださった聖なる方にならって、あなたがた自身も、あらゆる行ないにおいて聖なるものとされなさい。¹⁶ それは、「わたしが聖であるから、あなたがたも、聖でなければならない。」と書いてあるからです。」神に選ばれた民として、私たちは神の聖さを反映し、世界やその非神聖な欲望から自分を分けるべきです。ペテロはレビ記の聖書の箇所を引用し、そこで神はこう言われています。「聖なる者となきなさい。わたしが聖であるから。」ところで、新アメリカ標準聖書では、新約聖書における旧約聖書の引用は、ここ画面で見られるようにすべて大文字で表示されます。今日のメッセージの中で、これについてさらに多くの例を見ることになるでしょう。

22 節で、ペテロは自身の手紙の第 2 章で展開するテーマを紹介しています。ペテロの手紙 第一 1:22-23 - 「²² あなたがたは、真理に従うことによって、たましいを清め、偽りのない兄弟愛を抱くようになったのですから、互いに心から熱く愛し合いなさい。

²³ あなたがたが新しく生まれたのは、朽ちる種からではなく、朽ちない種からであり、生ける、いつまでも変わることもない、神のことばによるのです。」

私たちは、神の生きていてとどまる言葉を通して新たに生まれます。先月述べたように、多くの人々が、この本、聖書、神の言葉が彼らの人生を変えたと言証していますし、歴史は、福音のメッセージが数え切れないほどの個人や社会全体をも変えてきたことを示しています。

22 節で、ペテロは私たちに重要な勧めを与えています。彼は心から互いに熱心に愛し合うように呼びかけています。これは、教会での生活、つまりすべての信者がキリストに信仰を置き、彼に従うことを誓った兄弟姉妹たちの愛に満ちた交わりの基盤となる出発点です。ヨハネの福音書 13 章 34 - 35 節で、イエスは次のように仰っています。「³⁴ あなたがたに新しい戒めを与えましょう。あなたがたは互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、そのように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。³⁵ もしあなたがたの互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。」

私たちがクリスチャンの交わりの中で互いに愛し合うことによって、世の人々は私たちがイエス・キリストの弟子であることを知るでしょう。

ペテロの手紙の第一 2 章は「ですから」という言葉で始まります。したがって、1 章で彼が言ったすべてのことを踏まえて、教会における愛はこのように表れるべきだということです。

ペテロの手紙 第一 2 章 1-2 節 - 「¹ ですから、あなたがたは、すべての悪意、すべてのごまかし、いろいろな偽善やねたみ、すべての悪口を捨てて、² 生まれたばかりの乳飲み

子のように、純粋な、みことばの乳を慕い求めなさい。それによって成長し、救いを得るためです。³あなたがたはすでに、主がいつくしみ深い方であることを味わっているのです。」再び、私はヤコブの手紙の反響を感じます。そこでは、教会での争いや対立を取り除くように促され、自分の心の中に潜む欲望や嫉妬を取り除くことで、お互いに対する行動が立派なものになるように教えられています。ペテロが指摘するこれらの悪い習慣、英語で言うところの悪徳は、お互いに示すべき熱心な愛を破壊するようなものです。

聖書学者ウェイン・グルデムのコメントをいくつか引用させてください。

「それで」あるいは「それゆえに」という言葉は、22 節の『互いに愛し合いなさい』という命令にさかのぼって指しています。この節は、『熱心に』互いに愛することが何を伴うのかをより詳しく説明しています。それは、他人に害を及ぼす態度や習慣を捨て去る（放棄する、取り除く）ことを意味します。…

真の愛は、あらゆる悪意（ギリシャ語の *kakia* はより広い意味を持ち、英語の「evil（道徳上悪い・邪悪な）」や「wickedness（不正・悪意）」に近く、悪意だけでなく他人に害を与える行為も含みます）、あらゆる策略（すなわち、欺きや虚偽によって他人を害する狡猾さ）、不誠実（または偽善、内面の悪を表面的な義で覆い隠すこと）を人生から取り除くことを要求します。—マタイ 23:28、マルコ 12:15、ガラテヤ 2:13 の箇所でのこの言葉を参照）、嫉妬（他人に訪れる善に対する感謝の反対）とすべての中傷（他人の地位や評判などを傷つける、または傷つける意図のある発言——関連する動詞は 2:12、3:16、ヤコブの手紙 4:11 で用いられています）。これらすべての罪は他人を害することを目的としていますが、愛は他人の益を求めます。

愛は他者の善を求めます。私たちは、他の人に害を及ぼす態度や習慣を取り除かなければなりません。もし私たちが本当に兄弟姉妹の善を求めるなら、私たちは神の家族である人々との関わりにおいて、これらの悪徳のいずれも用いることはないでしょう。

悪意。このギリシャ語は不正・悪意や邪悪、墮落を意味することがあります。あなたはこれまでに、嫌いな人に何か邪悪なことが起こることを望んだことがありますか、あるいは他の人に身体的または感情的に害を与えたいと思ったことがありますか？自分の心を見つめ、そのような悪い性質を態度や行動から取り除きましょう。

狡猾。この言葉は欺きや策略とも翻訳できます。状況で有利になるために嘘をついたことはありますか？他人に対して嘘を使って優位に立とうとすることは、確かに他人の善を求めることではありません。

偽善。これは聖書全体を通して何度も非難されています。ここで使われているギリシャ語は、演劇で役を演じるために仮面をつけることを指します。あなたはただキリスト者のふりをしているだけですか？他人に敬意を払っているふりをしているだけですか？実際には心の中で違う態度を抱きながら、キリスト者としての行動を形だけ行っているだけですか？先ほど読んだペテロの手紙 第一 1:22 では、まさにこの悪徳から私たちは浄化されなければならないとペテロが言っています。—「²²あなたがたは、真理に従うことによっ

て、たましいを清め、偽りのない兄弟愛を抱くようになったのですから、互いに心から熱く愛し合いなさい。」

嫉妬。これは、自分の利益のためだけを望み、他の人の恵みに感謝しないことを意味します。

中傷—文字通り「悪い言葉」。これは「他人を習慣的に貶めること」と表現されます。あなたは他の人の悪口を言いますか？彼らは実際に、あなたが下したような判断に値するのでしょうか？それとも、また自分自身のことを考えて、兄弟姉妹をどう支えるかを考えていないのでしょうか？

聖書学者トーマス・シュライナーの言葉を引用させてください：

ここに挙げられた罪は教会の社会的な結びつきを引き裂き、それを結びつけている愛の糸を切り裂きます。ペテロは、このことによって、共同体の中でどんな罪も容認されるべきでなく、罪は徹底的に拒絶されるべきであることを示しています。

罪は全面的に拒絶されるべきです。あなたの心の中の態度、そして行動の中で、他のキリスト者や他の誰かに対して不敬または有害である可能性のあるものをよく見つめてください。それらを取り除き、心を清めなさい。悪徳を取り除き、その後、愛、正直さ、親切さといった美德を育んでください。

ここで1節と2節を見ると、これらは一つの文を形成しており、ギリシャ語の文法学者によれば、「制御する・やめる」という言葉は直接の命令形ではなく分詞であるということです。この文の主な命令形は2節にあり、「切望せよ」という形になります。

1節と2節をもう一度読ませてください—「¹ですから、あなたがたは、すべての悪意、すべてのごまかし、いろいろな偽善やねたみ、すべての悪口を捨てて、²生まれたばかりの乳飲み子のように、純粋な、みことばの乳を慕い求めなさい。それによって成長し、救いを得るためです。」私たちは、純粋なみことばの乳を切望するように言われています。なぜなら、この方法で私たちは霊的に成長することができるからです... この方法で、私たちはペテロの言葉を借りれば「救いに関して成長する」ことができます。ここでの「救い」という言葉は、一章で使われたものと同じ意味で使われています。それは、私たちが救われたという過去形の事実ではなく、イエスが再臨されるときに救いが完全に実現することを見据えたものです。したがって、私たちはこの地上の生涯を通して霊的に成長し続けることが期待されています。

これを行うためには、私たちは神の言葉という純粋な乳を切望しなければなりません。

「切望する」という言葉は強い表現で、渴望を示しています。私たちは、新生児が母乳を渴望するのと同じ強さで、神の言葉である聖書からの教えを渴望するべきなのです。この節は、1コリント3章やヘブル5章における乳を基本的なキリスト教の教えの比喻として用いた用法を思い出させるかもしれません。この手紙の読者たちが霊的に未熟であった場合です。しかし、ペテロはこの比喻を神の言葉に例えて別の意味で用いています。彼の聴

衆は未熟なクリスチャンではなく、これらの教会にいるすべての人々に対して、神の言葉を渴望し、一生涯にわたって成長し続けるように諭しているのです。ここでレッスンを繰り返させてください：私たちは、赤ちゃんが母乳を渴望するのと同じ強さで神の言葉を渴望するように励まされています。それはかなり強烈です — 赤ちゃんは毎日、何度も乳を欲しがります。私も 20 代や 30 代のときにはこのような強烈な渴望を持っていました。今日、私は若い頃とは違う形で神の言葉を渴望しており、聖書における救いの歴史の全体像を理解しようとしていますが、それでもなお強烈に追求しています。

並行聖句はコロサイ人への手紙 3 章 16 節です — 「¹⁶キリストのことばを、あなたがたのうちに豊かに住ませ、知恵を尽くして互いに教え、互いに戒め、詩と賛美と霊の歌とにより、感謝にあふれて心から神に向かって歌いなさい。」私たちは、キリストの言葉が豊かに（本当に豊かに！）私たちの中に宿るように勧められています。イエスの言葉は私たちの心と思いの中に宿っているべきです。そして、神の言葉で満たされることによって、私たちは互いにキリスト者として成長し続けるよう励まし、忠告することができます。ちなみに、私は数年前に「キリストの言葉を豊かにあなたの中に宿らせなさい」という題の説教を行い、神の言葉を日々、そして一日に複数回取り入れるための様々な方法を説明したことがあります。その説教に目を通してみることをお勧めします。

ペテロの手紙 第一 2 章に戻ります。私たちはいくつかの悪い習慣を取り除き、御言葉の純粋な乳を渴望するよう勧められています。この乳は純粋でなければならず、どんな汚染もないものです。ここで「御言葉」を表すギリシャ語は *logikon* で、これは実際には *logos* という言葉に関連する形容詞です。これは真実で霊的な御言葉を意味します。この言葉の名詞形は 1 章 23 節で使われており、*logou* または *logos* という言葉で、メッセージや伝達を意味します。今日私たちはすでに 22 節と 23 節を読みましたが、これらはここでの 1 節と 2 節と平行しています。

再び、ペテロの手紙 第一 1 章 22-23 節 — 「²²あなたがたは、真理に従うことによって、たましいを清め、偽りのない兄弟愛を抱くようになったのですから、互いに心から熱く愛し合いなさい。²³あなたがたが新しく生まれたのは、朽ちる種からではなく、朽ちない種からであり、生ける、いつまでも変わることはない、神のことばによるのです。」
私たちは兄弟愛を心から持つために、すべての悪い態度から魂を清める必要があります。私たちは神の生きてとどまるロゴス、神の言葉によって新たに生まれたのです。本当に、とても、とても重要なのは、神の言葉を切望し、それを読み、取り込み、それによって自分の心と魂を変えさせることです。

さらにペテロの手紙 第一 2 章 4-6 節に行きましょう — 「⁴主のもとに来なさい。主は、人には捨てられたが、神の目には、選ばれた、尊い、生ける石です。⁵あなたがたも生ける石として、霊の家に築き上げられなさい。そして、聖なる祭司として、イエス・キリストを通して、神に喜ばれる霊のいけにえをささげなさい。⁶なぜなら、聖書にこうあるか

らです。「見よ。わたしはシオンに、選ばれた石、尊い礎石を置く。彼に信頼する者は、決して失望させられることがない。[イザヤ 28:16] 」

これは、先週別の話題について話していたときに読んだ一節を思い出させます。皆さんのために、エペソ人への手紙 2 章 19-22 節をお読みします – 「¹⁹ こういうわけで、あなたがたは、もはや他国人でも寄留者でもなく、今は聖徒たちと同じ国民であり、神の家族なのです ²⁰ あなたがたは使徒と預言者という土台の上に建てられており、キリスト・イエスご自身がその礎石です。 ²¹ この方にあつて、組み合わされた建物の全体が成長し、主にある聖なる宮となるのであり、 ²² このキリストにあつて、あなたがたもともに建てられ、御霊によって神の御住まいとなるのです。」

聖書の両方の箇所、キリストはこの霊の家、すなわち教会として知られる聖なる宮の礎石として描かれています...そして私たち個々のキリスト者は、この建物が建てられる過程で壁に置かれる生ける石です。それぞれの私たちが、この聖なる宮、すなわちイエス・キリストの教会を築き上げる役割を果たすことが重要です。そして、この建物の礎石はキリストであることを忘れないでください。

ペテロはこの礎石のある側面を強調しています。もともとそれは建築者たちによって拒まれ、取り除かれた石でした。イエスの物語を読むと、ユダヤの指導者たちや民がメシアを拒み、ローマの権力者たちに十字架にかけよう要求したことがわかります。彼らはイエスを殺しましたが、墓は彼を留めることができませんでした。イエスは三日目に甦り、今日、父なる神の右手にある天の御座に座っています（ヘブル人への手紙 8 章 1 節、コロサイ人への手紙 3 章 1 節参照）。イエスは聖霊を私たちに送り、教会が福音を広め、すべての国で弟子を作り、この聖なる宮をより多くの生ける石、すなわちキリストに従う者となった男女でさらに築き上げていく力を与えてくださったのです。5 節を見ると、私たちは「聖なる祭司」と呼ばれており、「イエス・キリストを通して神に喜ばれる霊のいけにえをささげる」と書かれています。私たちはもはや動物をいけにえとしてささげることはなく、むしろ自分自身や自分の能力、行動を主にささげるのです。ローマ人への手紙 12 章 1 節 – 「そういうわけですから、兄弟たち。私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします。あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。」

ペテロの手紙 第一 2 章 7-8 節に移りましょう – 「⁷ したがって、より頼んでいるあなたがたには尊いものですが、より頼んでいない人々にとっては、「家を建てる者たちが捨てた石、それが礎の石となった。」のであって[詩篇 118 : 22] ⁸ 「つまずきの石、妨げの岩。[イザヤ 8 : 14]」なのです。彼らがつまずくのは、みことばに従わないからですが、またそうなるように定められていたのです。

ある人々は、イエス・キリストという礎石を何度も拒み続けます。実際、彼はこれらの不信仰な人々にとって「つまずきの石、妨げの岩」となっています。これはイザヤ書 8 章 14 節で預言されており、従わないイスラエルと従わないユダが、神が彼らがつまずく石

であることを知るとされています。旧約聖書の歴史においても、イスラエルが信仰に背き不従順であることはしばしば見られ、新約聖書においてもユダヤ人が自分たちのメシアを拒むとき、この傾向は続きます。

ペテロは、9 節から 10 節で彼のクリスチャンの聴衆にこう言っています - 「⁹しかし、あなたがたは、選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神の所有とされた民です。、[申命記 10:15, イザヤ. 43:20; 出エジプト. 19:6, 黙示録. 1:6; イザヤ 61:6; 申命記 7:6, イザヤ 43:21, マラキ 3:17] それは、あなたがたを、やみの中から、ご自分の驚くべき光の中に招いてくださった方のすばらしいみわざを、あなたがたが宣べ伝えるためなのです。¹⁰あなたがたは、以前は神の民ではなかったのに、今は神の民であり、以前はあわれみを受けない者であったのに、今はあわれみを受けた者です。[ホセア. 1:6, 9, 10, 2:23]」

もし覚えていれば、今日のメッセージの冒頭近くで、the New American Standard Bible, では、新約聖書での旧約聖書の引用がすべて大文字で書かれているとお伝えしましたが、画面に表示されているように、ペテロはここでいくつかの旧約聖書の引用をこれらの節に入れています。

ペテロの手紙 2 章のこの箇所を読むたびに、ペテロが私たちキリストを信じる者たちを表すために使っている旧約聖書の言葉遣いに驚かされます。旧約聖書のさまざまな箇所から、ペテロは神に選ばれたイスラエルの人々についてのさまざまな表現を取り、それをクリスチャンの共同体に当てはめています。私たちは「選ばれた種族...王なる祭司...聖なる国民...神の所有の民」と呼ばれています。私はこれに驚かされます。なぜなら、私は聖書を文字通りに受け取るように教えられてきたので、旧約聖書のイスラエルやユダのための預言を読むと、それがイスラエルとユダにだけ当てはまるものだと思い込んでしまうからです。

例えば、新しい契約の約束です。エレミヤ書 31 章 31 節を見てみましょう。その聖句の箇所、エレミヤ書 31 章 31 節を覚えておいてください。その節から 34 節まで読んでみましょう。 - 「³¹見よ。その日が来る。一主の御告げ。一その日、わたしは、イスラエルの家とユダの家とに、新しい契約を結ぶ。³²その契約は、わたしが彼らの先祖の手を握って、エジプトの国から連れ出した日に、彼らと結んだ契約のようではない。わたしは彼らの主であったのに、彼らはわたしの契約を破ってしまった。一主の御告げ。³³彼らの時代の後に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこうだ。一主の御告げ。一わたしはわたしの律法を彼らの中に置き、彼らの心にこれを書きしるす。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。³⁴そのようにして、人々はもはや、『主を知れ。』と言って、おのおの互いに教えない。それは、彼らがみな、身分の低い者から高い者まで、わたしを知るからだ。一主の御告げ。一わたしは彼らの咎を赦し、彼らの罪を二度と思い出さないからだ。」

この新しい契約はもともとイスラエルとユダに対して作られたものでしたが、イエスはそれを異邦人にも広げました。最後の晩餐で、ルカによる福音書 22 章 20 節にこれを読むことができます。 - 「食事の後、杯も同じようにして言われた。「この杯は、あなたがたのために流されるわたしの血による新しい契約です。」ここで、イエスは明らかに新しい契約を確立しています。それは私たちの罪を赦すためにご自身を犠牲にすることです。そして、マタイ 28 章 19 節やルカ 24 章 47 節の大宣教命令において、イエスは使徒たちに、罪の赦しのための悔い改めのメッセージをすべての国々に伝え、すべての国々の人々にバプテスマを授けるように命じました。この新しい契約は、今やユダヤ人にも異邦人にも開かれています。この話題についてもっと話したいところですが、今日のメッセージはこの考えで締めくくりたいと思います。

今日はペテロの手紙 第一からの箇所の主な教訓をいくつか振り返ってみましょう。

- 古代イスラエルのように、私たちクリスチャンも神に選ばれ、その契約の愛を楽しむ者とされています。
- 救いは、父、子、聖霊の働きです — 父の選び、子の犠牲的な死と勝利の復活、そして聖霊の私たちの人生における聖化の働きです。
- 私たちは心を清め、あらゆる悪意、欺き、偽善、嫉妬、誹謗を取り除かなければなりません。
- そうすれば、互いに心から熱心に愛し合う準備が整うでしょう。
- 私たちは、神の言葉の純粋な乳を切望し、それが私たちの心を変えるようにしましょう。
- キリストは教会の礎であり、私たちはその神の聖なる宮に生ける石です。
- 私たちキリスト者—ユダヤ人であれ異邦人であれ—は、選ばれた民であり、王なる祭司の民族であり、新しい契約の共有者です。